

# 原虫生化学分野

## 論文

### A 欧文

A-a

1. Mi-Ichi F, Tsugawa H, Vo T, Kurizaki Y, Yoshida H, Arita M: Characterization of Entamoeba fatty acid elongases, validation as targets and provision of promising leads for new drugs against amebiasis. PLoS Pathogens 20(8): e1012435,2024. doi: 10.1371/journal.ppat.1012435.

A-b

1. Mi-ichi F, Hamano S, Yoshida H: Links between cholesteryl sulfate-dependent and -independent processes in the morphological and physiological changes of Entamoeba encystation. Parasitol Int 99: 102844,2024. doi: 10.1016/j.parint.2023.102844.

### B 邦文

B-b

1. 見市文香：寄生原虫、赤痢アメーバの含硫脂質代謝経路の意義. 生化学 Vol.96(3): 364-369, 2024.
2. 見市文香：寄生原虫赤痢アメーバが合成する超長鎖ジヒドロセラミドの役割. 生化学 Vol.96(4): 531-536, 2024.

## 学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
1	0	5	0	0	5

## 社会活動

氏名・職	委員会等名	関係機関名
見市文香・教授	日本脂質生化学会幹事	日本脂質生化学会
見市文香・教授	日本生化学会評議員	日本生化学会
見市文香・教授	日本生化学会九州支部支部評議員	日本生化学会九州支部
見市文香・教授	日本寄生虫学会評議員・理事	日本寄生虫学会
見市文香・教授	日本寄生虫学会南日本支部会・支部長	日本寄生虫学会南日本支部会

## 競争的研究資金獲得状況（共同研究を含む）

氏名・職	資金提供元/共同研究先	代表・分担	研究題目
見市文香・教授	国立研究開発法人日本医療研究開発機構	代表	新興・再興感染症研究基盤創生事業（多分野融合研究領域）赤痢アメーバと宿主免疫がつくる攻防空間の多面的理解に基づく感染症創薬基盤の創生
見市文香・教授	一般財団法人 化学及血清療法研究所	代表	2024年度『化血研ステップアップ研究助成』赤痢アメーバが産生する超長鎖ジヒドロセラミドの休眠化における機能解析
見市文香・教授	熱帯医学研究所	代表	科研費基盤(B)ステップアップ支援
見市文香・教授	長崎大学	代表	令和6年度科研費獲得支援事業「リベンジ」

## その他

### 非常勤講師

氏名・職	職（担当科目）	関係機関名
見市文香・教授	非常勤講師（免疫学）	佐賀大学医学部医学科
見市文香・教授	非常勤講師（微生物学）	佐賀大学医学部医学科
見市文香・教授	非常勤講師（微生物学・寄生虫学）	佐賀大学医学部看護学科